京城新報

發行所 京城新報社 電話六六三

論説

輿論の價値

武陽山人

古來一個人の獨斷が屢々大なる事業を創設し改善したる跡を見て讃美の極獨斷萬能に心醉し輿論の價値勢力を輕視するもの多し此の如きは能く輿論の性質を理解せざるより生ずる謬見にして甚だ謂はれなきのみならず最も危險なる思想なり輿論の性質は創造的よりも批評的なり從つて輿論の價値は概して批準的監督的方面に於て大にして創造的經營的方面に於ては稍々少きを常とす輿論の價値を輕視するものは後者のみを見て速斷したる謬に陷れるものなり吾人の輿論に對する私見は左の如し

輿論は社會公衆の意見なり社會全体を基礎として定めたる意見の一致なり各個人が自己の利害より觀察して定めたる意見の總高にはあらず茲に意見の一致と云ふ所謂雷同にあらず意見とは常に多少の考慮を經たるものならざるべからず少しの考慮もなき所には意見の存在すべき余地なきなり勿論意見は推理考慮のみより來るものにあらずして屢々感情の影響を蒙ることあれども全く一思を煩はさずして器械的に盲從せる雷同とは明かに其區別を知らざるべからず

輿論は社會一般の利害に關して一致せる意見にして一箇人の私事に關係するものは輿論にあらず時として一箇人に關係するの觀あることあれども是れ其私事が社會一般に影響するが爲めのみ

考慮なき盲從が意見の一致と云ふこと能はざるが如く強制せられたる意見の一致は輿論をなさゞるなりさりながら強制せられたる場合と說服せられたる場合とは之れを區別せざるべからず強制は自由意思に反すれども說服は自己の自由意思に依りて論者の說に同意するものなれば毫も意見の一致と云ふを妨げず之れを同化せられたる意見と云ふも可なるべし何れの社會に於ても自働的に考慮を費すものは少數者にして他の意見に賛同するもの多し賛同は強制にあらず雷同にもあらざるが故に輿論の構成に何等の障碍あることなし日々社會に發生する萬般の出來事に就て洩さず考慮決定することは到底人力の及ばざることなるが故に他の意見を取捨することは勢ひ免れざることにして各自他の意見を知るの機會を有することは輿論の成立に缺くべからざる要素也

輿論の價値は其勢力の方面より見たる價値と其眞理の方面より見たる價値とに分つて論せざるべからず(未完)

搾乳業の沿革及方針

(續) 菅沼寒洲

韓國に於ける搾乳業の前途益々多事なるに至るべきや喋々を要せざるなり故に從來の營業者にして韓牛を飼養する者は漸々洋牛を輸入して之を改良し放牧場及農場を設けて牧農組織の經營をなすを得策とす而して搾乳所は牛乳配達の便宜上市街附近の地を擇ぶべきは勿論なるも一利一害は數の免れざるものにして市街地に在ては物價不廉にして多數の畜牛を飼養するに適せざるなり然るに搾乳業なるものは事業の擴張するに從ひ畜牛の頭數增加するは自然の勢にして之を市街地に於て飼養せんとするには多大の經費を要するにより搾乳所には現在搾取に供する乳牛のみを飼養し擴牛並に乳汁の分泌せざる畜牛は夏期は放牧し又は農場に移して飼養するときは其費用を輕減するを得て經濟上有益なるものとす農場に於ては大麥、燕麥、玉蜀黍、鈴馬薯、根菜類、牧草等を栽培して畜牛の飼料に供し牛舍の肥料は農作物に施用するときは一は以て搾乳所の費用を輕減して其利益を增進せしめ一は農業並に畜牛蕃殖の利益を得所謂一擧兩得の策なりとす然れども吾國の如く人口稠多にして土地限りあるのみならず現に種馬牧場、種馬所、種牛牧場、軍馬育成所等幾多の官立牧場は設置せられ尙ほ年々增設の實況なるを以て當業者が各自に牧場を有せんとするは到底望む可らざるも幸にして韓國に於ける現時の狀況は人口極めて稀疏にして廣漠たる原野は各地に存在し今回未墾地利用法の發布となりて牧畜に關する土地貸下げを許可せらるゝ等の便宜あるにより將來搾乳業者は牧農組織の方針を以て經營するを肝要なるものとす然れども斯業をして完全なる效果を收め韓國の利益を增進せんとするには左の施設をなして保護獎勵を加ふるは機宜に適するものなりと云ふべし

一、種牛貸下並種牛牧場を設立すること

韓國に於る畜牛の改良蕃殖は啻に公衆衞生に關するのみならず畜產經濟に忽諸に付す可らざるものなりと雖も畜牛の改良蕃殖を圖らんとするには善良なる種畜の購入にあるも之れ他より輸入せざる可らざるによりて爲めに多額の支出を要し私人の力を以て企劃するは至難の業なりとす故に吾國に於ても政府は嚮きに外國種牛を輸入し汎く之を地方に頒ちて種用に供せしめ種牛牧場を設けて當業者を保護し又は種牛巡廻交尾の便宜を與ふる等明治の初年より今日に至るも獎勵を加へつゝあるにより畜牛事業の發達進歩するに至れり翻て韓國の實況を見るに其氣候風土は能く牛の飼育に適し古來使用及肉用として体格良好なる畜牛を產するも屢々牛疫の慘害を被り殊に明治三十六年流行の際には數萬の畜牛を斃死せり同三十七年より日露の戰役に際し食用の爲に屠殺せる畜牛は實に莫大なる多數に達し全盛一般著しく畜牛の數を減少し其頭數舊時の狀態に復するには尙ほ幾多の歲月を要するものなるも一方に於ては食肉の需用は益々隆盛に赴くのみならず年々韓國牛の本邦並に露領浦鹽に向て輸出せらるゝもの是れ又頗る多數なるにより晩近畜牛價額も非常なる昂騰を來たし戰役以前に比するときは殆んど三倍餘の高價に達せり斯の如く畜牛市價の騰貴せる所以のものは畢竟需用に對する供給の不足に起因するものにして公衆衞生上乳肉補給の必要は勿論農業振興上畜牛の改良蕃殖を獎勵するは刻下の急務なるを以て當局者は民間の當業者をして產牛組合を組織せしめ其團体に向て種牛を貸下げ又一方に於ては種牛牧場を設立して畜牛の飼養管理模範を示し種牛の補充幷に附近の畜牛所有者の爲に交配の便宜を與ふる等保護獎勵の法を施行するに於ては曩きに發布せられたる未墾地利用法と相俟て畜牛事業を隆盛ならしめ韓國の利源を開發して其富力を增進することを得るものとす

二、家畜の運搬に關する便宜を與ふること

家畜運搬の利便如何は畜產の發達上至大の影響を及ぼすものなりとす殊に韓國の如き畜產事業の發達して牛馬羊豚何れも改良を加へざる可らざる國に在ては將來種畜輸入の頻繁に赴くは勿論なり又韓國產の畜牛も年々吾國に輸出せらるゝものは其數多大にして明治二十五年より同三十九年に至る既往十五ヶ年間に於ける統計の示す處によれば一ヶ年平均三千八百三十頭にして昨三十九年の如きは壹萬〇六百四十六頭の多きに及べり之れ通關稅を納付して輸出したるものなれども其他稅關を免れて密かに輸出する頭數又頗る多しと聞く故に家畜運搬の便利を計るは畜產發達上の利益大なりと云べし吾國に於ては畜產獎勵の爲め家畜運搬に關する鐵道運賃の如きは特に低廉なる規定を設けらるゝも韓國には斯る特例あらざるにより其運賃の不廉なるのみならず運輸上の不便も尠なからざるなり依て汽車幷に船舶の運賃を低減して家畜の搬出入を容易ならしむるの必要あるものとす而して從來吾國に於て韓牛輸入の爲めに牛疫の侵襲を被るは必竟奸商輩が獸類檢疫所設置せる海港を避け他の場所に向て密かに畜牛を上陸せしめ巧みに檢疫を免るゝ等のこと往々之あるが故なり依て之れが家畜運搬に關する保護法を設けて其運賃を低減し當業者に便利を與ふるは韓國の畜產發達上幷に吾國の牛疫豫防上最も緊要なるものとす(完)

鴨緑江の森林

鴨綠江左岸一帶の韓國江界、慈城、厚昌、三水、甲山地方に於ける森林は日韓合同の營林廠に於て經營をなし大に之が發展を圖り對岸長白山脈の大森林も近き將來に日清共同の經營を開始せんとしつゝあるが鴨綠江材は清韓國樵夫の隨意伐採に任し何等の組織的設備をなさゞりし時代に於いても既に其の良材の產額多大なると各地に向つて運輸の便なるより東洋著名の木材產地として知られし程なれば從來其の材積は年々百萬連乃至百二三十萬連(連とは長さ八尺にて斷面の大小を論せざるも平均斷面百二十平方寸を有し材積〇、八〇尺〆とす)を輸出し黄花松三十萬、紅松五十万、杉松三十萬、雑木二十萬の割合にて安東縣、新義州、龍巖浦大東溝の四箇所に集散の大市場を設け有力なる問屋十五六軒ありて相場を一定する商習慣あり產出材の種類は凡そ四十種に達するが營林廠にては產額及び用途の點より其の十五種(落葉松、朝鮮松、唐檜、白檜、パラモミ、赤松、一位、楢、ハルニレ、ミチバリ、オニクルミ、鹽地、シナノキ、セン、ドロヤナギ)を選擇して出材する方針にて未だ創業の際多額の伐出は不可能なれど漸次其の數を增加し三四年の後には落葉松、朝鮮五葉松を主とし年々三四十万尺〆宛及び清國地方に使用する車軸材約十萬本以上を產出し次第に其の量を增加する豫定なるよし目下安東縣に於ける市價は左の如し

種類	一尺〆	種類	一尺〆
落葉松	三圓乃至五圓	赤松	平均三圓
朝鮮松	(同上)	檜	(同上)
唐檜	二圓五十錢乃至四圓	白楊	(同上)
白檜	(同上)	椴	(同上)
山胡桃	六圓		

釜山通信

(十一月十日發) 特派員報

▲目賀田男送別會 今回歸朝せらるゝとなりたる目賀田男が韓國經濟界に多大の貢献ありたるを德とし釜山在留の本邦人は本日正午松井座に同男を招待し盛大なる送別會を開きたるが來會者は龜山理事官、石原民長、山岡稅關長、石田商業會議所會頭其他居留地の重もなる人々數百名にて狂言、手踊、手品其他の餘興ありて近來稀に見る所の盛會なりし

▲會議所の感謝狀 當港商業會議所にては七日定期及び臨時會を開き諸般の議件を決し目賀田男に對し感謝狀を贈呈する件に付き協議し左の感謝狀を呈したりと云ふ

男爵目賀田種太郎閣下、曩きに韓國財務の要路に立ち財政の整理、稅務の統一を初めとし稅關の改善、港灣の改修、航路の利便並びに金融機關及び模範的新事業の創設等其他各般の施設經營至らざるなく其韓國を啓發して併せて任留邦人を益せられたるの功績甚に偉大なりとす今や閣下綬を解き歸國せらるゝに當り本會議所は茲に總會の決議を以て謹んで閣下の功績を頌し感謝の誠意を表す

明治四十年十一月十日

釜山日本人商業會議所會頭 石田信一郎

▲釜山繁榮會の贈品 目賀田男爵歸朝に付當地の繁榮會よりは會長山岡義五郎氏の名義にて金製杯一個に叮重なる贈呈狀を添へ紀念として同男へ贈りたり

▲小學生徒修學旅行 當地高等小學校生徒は大阪地方へ向け修學旅行する筈なりしも虎列剌流行の爲め一時見合せ居りしが最早や殆んど全滅したるを以て愈よ明十一日第三學年生七十一人林山田兩訓導の引率にて出發することゝなれり其旅行區域は十二日下關に着し神戸、大阪、奈良、山田、大津等を經て京都に至り夫より大阪に出で海路馬關に着し同二十三日歸校の豫定なり大阪にては造幣局、第四師團令部、砲兵工廠等を參觀する筈なりと

▲客月中出漁狀況 目下韓海出漁の盛期に際したる爲め先月中は最も多數の出漁者ありて目下の趨勢にては前年の出漁者數に比し約三割の增加を豫期し居れる由なるが客月多島水產組合本部調査にかゝる出漁船數、種別人員等は巨濟島及び迎日灣を主要漁場とする流網漁業者最も多く船數八十八隻人員二百七十八人に達したり次ては手繰網の五十四隻百五十九人、活洲船十九隻五十四人、釣船五十三隻二十一人、鰹網十五隻二十六人、母船十二隻四十二人、打瀬網二十壹隻五十七人、潛水器九隻、六十六人、鰻かき二隻、運搬船壹隻四人、鱶繩六隻十五人、鰕網五隻二十二人等なりといふ因みに壹月以降累計額は千二百三十五隻、從事人員四千三百五十七人なりと云ふ

文苑

佳羅丹之殘

玉井南軒

紅葉

もみぢ葉は春より秋にかけまくもあやにかしこき神の手染か

紅葉如錦

紅葉ばの赤き靑きをこきませてならびの岡は錦なりけり

小説

絃のみだれ(一)

永井櫻國

眞白に降り敷いた霜が、物凄きまで輝く利鎌の月に冴ゆる霜月の初旬某夜であつた。

凍きつた都大路にカラコロと響く下駄音も絕えて、鍋燒饂飩の聲のみ夜の寂寞を訪る十一時過ぎ、東京芝區明舟町の唯ある棟割長家の、東の端から二軒目の家で、緩く眠さうな太棹の音が、優に哀れ氣な淨瑠璃の節と共に聞ゆる。語物は安達ヶ原の三段目で、盲婦袖萩が父謙杖の難義を聞きて訪るゝ條である。

「不便やれ袖はとぼ／＼と、親の大事と聞くつらさ、娘れ君に手を引かれ、親は子を杖、子は親を、走らんとすれど雪道に力なく／＼辿り來て……」

と、尙も語り續けんとした時、嗄れた大きな聲で、叱付くやうに、

「こりやお縫、往けと言ふのに往かんか親不孝の大罰當が……」

と呼ばれた娘は、急に手を休め口を噤むだが、やがて、

「だつてお父樣、モウ酒店は寢了つてます

「何だと、モウ一度言つて見よ、モウ酒店が、寢了つたとは何の言草だ、親に向つて飲みたい酒を辛抱しろとは、何の口で吐くのだ、こりやアイ、貴樣はこの親を何と思つてる」

と、漸次に聲が高くなる。お縫は今年十六の、色のクッキリと白い、中高な愛らしい顏で、斯る棟割長家には相應しからぬ容貌である。怪しげな舌廻で、漸次に高まる父の小言を、又かと眉を顰めつゝ、苦しさうな息を吐きながら、

「お父さん、私が惡かつたから、モウ那樣に大きな聲を出さないで下さい、直に往つて敲き起しても買て來ます、往くのが可厭で言たんぢやありませんわ、お前さんの身体を氣遣つて言たんだわ、いくらばかり買つて來るの…」

と、三味線を手早く納つて、怖々父の傍に往けば、



から、今夜は有だけで辛抱なさいよ、それにあんまり一時に澤山上ると、身体のためにも宜く無いわ」

と、當惑らしい顏色で父を眺めた、父親と云ふのは六十前後で、背の恐しく高い、骨組岩疊な、白髮頭をクリ／＼坊主に剃つた、赭顏の、胸のあたりが酒焦に焦けた、見るからに酒好の飲忿漢らしい男である、藍微塵の袷の上に紺木綿の三尺帶を前結に結び、黄色がつた堅縞の溫袍を其上に引被けて、今しもチャブ臺の前に大胡坐を掻き傍にある長火鉢の銅壺に燗をしつゝある、德利から手酌で注いで如何にも樂しさうにチビ／＼と飲むで居つたが、お縫の辭を聞くと均しく、如何にも癪に觸つたらしく、飲かけた酒をグッと一呼吸に呻つて、やゝ身体を此方に捻向け、大きな眼玉をギリリと光らせ、虹のやう 酒臭い息をフーッと吹きながら、

「いゝや、親の飲たい酒を飲むなと言ふやうな不孝娘にはモウ頼まない、モウ頼まない、頼まない代りに貴樣に些とばかり言つて聞かせる事がある、まあ其處へ坐れッ」

と、ます／＼聲が高い、お縫は近隣の手前をかねて、ハラ／＼胸を痛めつゝ、

「お父樣私が惡かつたから、どうぞモウ今晩だけは何にも言はないで堪忍して下さいな」

聲顫はして頼むのである、

「いゝやならん、貴樣のやうな奴は、私の足腰の立たんやうになつた時は、乾干にして了ふ不孝娘だ、今の中に骨身に應へるほど言つて聞かさんと癖になる」

と、醉に乘つてたけるやうに叫ぶ。

先程から通りかゝつて、父子の口爭に耳を傾けて居る青年があつたが、此時入口近く進み寄つて、煤ばけた標札を月光に透すのであつた。

京城新報

自衛團

今更自衛團とは韓士の多き世の中に於て隨分取り遲くれたる企ならずや。願くは五十萬の一進會よりも尤も多數なる生靈の爲めに斯る良策を劃するこそよけれ

博覽會の閉鎖

滑稽なる博覽會は、目出度其期を終へて近日閉鎖せらるべし、蕪然寂然世の笑となるものを長く存せんよりは速かに閉さすに如かざるべし。

一年雜記

「置土産」（上） 對星樓山人

李兄弟前時代と後時代 上

十年前に於て遷宮時代の勢道を柄りし李允用李完用の兄弟は、獨立協會の自由民權黨に參加せしとて激しき攻擊を被むり、其一は全羅の一角に逐られ、其一は副將の名譽職にて月日を送くりて居る。

漢城の政界は幾回の權勢軌道が廻轉し、幾多の權臣が消長したにも拘らず、其一は全州より召還せられて其頭上に一大灸を据へられ、其一は高下島問題で久しく西門外に籠居して居る、最早社會は兩李の姓名を忘却せんとする頃、半島の變革たる日露戰火が開かれた、變革は權勢の革分である、戰火は人物の陶汰である、何事なしに暮らし能はざる此兄弟は露軍の敗兆を觀て、南村接近策を講じた、南村接近策に先つて、彼は東京政府を訪問し、接近策の仲介人物を發見すべく、其愛兒を日本に送くり、多少の土産を獲て歸國した。

彼等は此微光を望むで駱南山に上らんとしたのである、畢竟して申せば彼等は一躍して宮廷の殿下に樣登せんとした、其堅忍と熱心は端なくも外交消滅の前數日に於て舊友たる韓總理と朴外相の引援によりて內閣に立つを得た、漢城の策士は此大獲物を見て怪物と目稱した、就中李根澤の驚愕は其心臟を吹動したのである、何んとなれば、彼は四年前に於て李完用の頭角に鐵棒を加へたる一人である、其策略機智に於て當面の競爭者が出現したるを見て韓內閣は沈默の圈內に置かれた。

早くも風說流言は李完用氏の身邊に注射される、曰く、彼等兄弟は露國黨の巨魁である、露國公使館の遷宮は兄弟の演劇である。斯くて新協約時代に際會し、漢城の政界は權勢の高顯が國の存亡と反比例に湧いて居る、內閣大臣は韓首相を除くの外は政權の衡量にあり、何れも沈默して居りしに拘らず李完用は自ら協約の成立に進んで助言したのである、我外交官も斯る爽白なる伴食大臣中より、斯る活潑なる發言を聽くことは頗る意外であつたのである、意外なる伴食大臣が早くも此機會に於て今日李內閣組織を爲し得べき運命を有したることは朴首相も李根澤三兄弟も恐らく意外としたであろふ。

李軍相の眼光は昨年四月より、著しく點坐せる學部の一角を睨視しつゝあつた、彼は或時代に於て全部の日本人をして顧盼し、全部の日本人を沈默せしめ得た積りであつた、只だ花開洞の嶺上に於て書史を讀む一個の老儒と、西門外の閑邸に蟄居せる瘦紳士は、彼が安眠し能はざる敵火である。

東京電報

海外官廳の豫算額（九日發）

韓國統監府台灣總督府樺太民政廳の明年度豫算一千一百萬圓にして四十二年度以后の財政計畫決定の上審議を經る筈なり

各地電報

暴徒分派所を襲ふ

十一月五日群山發

本日午後恩津郡分派所へ暴徒約百名襲來防戰中當地（江景）守備隊巡查江景より同地へ向ひたる旨江景分署より報せり

同別報 （同日公州發）

暴徒約百名恩津分派所へ襲擊防戰中との急報あり警部巡查五名急派す

雜報

韓皇遷宮確定

韓國新皇が惇德殿より東大門內なる昌德宮に移御のことを仰出されし以來直ちに昌德宮の修繕に着手され已に其功を竣りしを以て愈よ明十三日遷宮の式を擧げらるゝ筈なりと云ふ

伊藤統監の歸朝

伊藤統監には來る十二月五日出發歸朝せらるゝ由なり

韓國皇太子の留學

韓國皇太子日本留學のことは既に決定し居ることは世人の知る所なるが伊藤統監の歸朝せらるゝと同時に出發渡日せらるゝと云ふ

歐州列强密使派遣の風說に就て

脚下より緊要なる陰謀發顯するまで知らざる當世探偵の耳に達したる風說函中に頗る珍らしく耳にしたるは太皇帝の御手許より英露佛獨等の歐州列强に密使を送くりて韓の國權回復を企てつつありとの風說なり へーグの密使にて御退隱あらせられたる太皇帝が重ねて又歐州密使にて如何なる事變を引起さしめんとせらるるや密使問題の眞相こそ知らまほしきことなり

●韓國憲法 同憲法起草案は伊藤統監の命により梅博士擔任して之が起草中の由

なるが何れ制定發布の後にて宮中府中の別自ら明かとなるべしと云ふ

●邦人大臣任命說 近き將來に於て宮內大臣を除くの外總理大臣以下悉く邦人を以て韓大臣に代るべしとの風說目下韓人間に喧傳せらる

●韓國紙幣 北韓にては今尙日常取引に韓國紙幣を專用するの有樣にて會寧邊の如きは第一銀行券の通用殆んど皆無なりと云ふ

伊皇の辰誕

昨十二時は伊太利皇帝イマニユーエル陛下の誕辰節なるを以て同地領事館に於ては其の祝儀を催し伊藤統監も往祝せらるゝ筈なるが事故ある就き代理を遣はしたり

●皇太子の下賜 太子博覽會臨場の際護衞したる市川憲兵大尉以下下士卒二十二名へ左の下賜品ありたり

一葉卷煙草 若干 市川大尉
一紙卷煙草朝日二十二箱 二十二名

●韓皇の寄附 愛國婦人會京城本部大會に際し韓皇后より金二千圓を寄附あらせられたりと云ふ

●一進會總務委員派遣 同會にては暴徒鎭撫の目的を以て不日總務委員一名つゝを各道に派遣する由なるが總務委員中には到底奏效の見込なしとて出張を好まざる者もありと云ふ

宣諭使の訓示

咸鏡南道北部巡回中の宣諭使及び端川の郡守は二十九日來開會せる端川民會に臨み大要左の訓示をなしたり來會者は各面長及び有志者九百餘名にて傍聽者七八十名ありしが訓示事項は左の如し尙は郡守の訓示は宣諭使の訓示と大同小異なれば略することとせり

一農工商業會社銀行等を設置し斯業の發達を計るべきことと
一養蠶は有利の事業なるに付會社組織により事業の進步を計ること
一各邑併合の學校を建て學術を獎勵すべきこと
一孔子廟は政府の訓令に依り役員を廢止せしも尙政府より何分の訓令あるならん各自平穩に之を待つべきこと
右に付學長廉宅諒は可成從來通り役員を置くことにせられたしと述べたり
一南北各地には暴徒蜂起し國家は多大の損害を受けつゝあるも本道は今日迄平穩にて各道の其に毅む處なり今後も能く注意し警戒をなすべきことと
一本郡郡守は奉任且經驗の乏しき者なるに付能く之を補佑して國利民福を計るべき事
一本郡現任主事は老体且病身の故を以て辭職せしに付適當の後任者を撰擧すべきこと

大要前記の次第にて民會は平穩なりき當日の模樣より察するに宣諭使の命令に服從せしものゝ如し今後孔子廟のことに就ても別に不穩の擧に出づることなかるべし

抱川方面の戰況（十一月六日發）

本月四日夜十二時頃暴徒約二十名二東橋里（議政府東北方約一里に）侵入し金員及糧食を强奪し同地に宿泊しありし日本人土方の男二名を殺害せり洪陵（上松隅南方約二里半）暴徒約二百集合しありとの報に接す依明七日午前一時發菅井特務曹長の率ゆる一小隊臨津江河孟討伐隊の一部と協力し擊攘せんとす

東豆川に策應の爲め出たる佐藤軍曹以下三名は適遙洞東南方山谷に於て暴徒の根據地を發見し戰鬪の後是を擊退せり

兎山方面の暴徒

步兵第五十二聯隊の兎山守備小隊は十一月五日其北方約五里なる伊川附近に前進し暴徒百と戰鬪し之を潰走せしめたり賊の遺棄せる死三傷一鹵獲品若干あり步兵五十聯隊より出せる臨津江、河孟討伐隊野中中尉以下百五名（騎兵十騎）は十一月四五兩日麻田郡城及朔寧附近の暴徒を掃蕩し之を潰亂せしめたり賊數約三四百其損害未詳我兵死傷なし

博覽會褒賞授與式

京城博覽會は前號所載の如く一昨十日午前九時より同會場に褒賞授與式を擧行せり今其模樣を記すれば第一號砲を以て來賓其他一同會場に參集し第二號砲にて式を開く此時樂隊の奏樂あり會長鶴原氏の式辭に次ぎ本賀審査委員長の審査報告あり次で受賞者に對し會長より褒賞を授與せられ此間奏樂あり次で伊藤統監、李總理大臣の祝詞ありて後出品總代の答詞形の如く濟み奏樂あり無事式を終り設けの模擬店を開かれたれば思ひ〳〵に模擬店に向ひたり此時伊藤統監は臨場の韓皇太子と共に他の休憩室に入り一時間程休憩せられ餘興演場に臨まれ設けの席に就き伊藤統監と切りに談話せられ花月、淸華亭の演劇二曲及び官妓の演舞の一曲を御覽せられたる上午前十二時還啓あられたるが皇太子には花月、淸華亭の藝妓及び官妓の演舞を御覽あらせられたる際の如きは餘程御興氣に召させられたるが如く伊藤統監李總理等と何か頻に談話しながら熱心に御覽あり雨催ほの天氣なりしかば李總理より早く御還啓あらせられねば雨降り來らんと御注意申上げしも只だ空を見上げられクワチアナとて仲々に立たせられざりしが漸く再三御催促申上げたるにより右の如く十二時御還啓あらせられたる次第にて當日の來賓は伊藤統監を始め統監府高等官韓國各大臣閔試輪氏其他の樞密顧問官及び日韓有志家出品人等千餘名にて仲々の盛況なりし尙當日一聚樂なりしは韓宮女三人列席したるなりし

●式辭と答辭 別項博覽會褒賞授與式に際し鶴原會長及び出品人總代の述べたる式辭答辭は左の如し

式辭

本會出品の審査終了を告げ本日爰に大韓國皇太子殿下の臺臨を辱ふし褒賞授與の式を擧行するは至大の光榮とする所なり

本會の出品は其種類多方面に涉り員數亦頗る夥多なるに拘はらず短少の日子を以て愼重なる審査を了したるは一に審査長及審査員諸氏の奮勵努力に依らずんばあらず而して其成績を案ずるに製作意匠の進步頗る顯著にして殖產貿易に資するもの亦甚多し之れ本會の深く滿足する所なり然りと雖も尙幾多研鑽改良の餘地を存するものなきにあらず希くは出品者諸氏に於て今後一層の奮勵と耐忍とを以て斯業の發達を圖り他日の大成を期せられんことを一言以て式辭となす

明治四十年十一月十日
京城博覽會長 鶴原定吉

答辭

本月本日京城博覽會出品審査の終りを完ふせられ此に出品人に對し名譽ある褒賞授與式を擧行せらる

抑も京城博覽會の開設は韓國進步機運に伴ひ其經營の時好に適したるのみならず人智の啓發と農商工業の扶植とに就で將來に稗益する所は蓋し小少ならざるを信ずる所なり

茲に博覽會長及び審査部長の最も公平無私なる審査に就ては偏に其功勞の多大なると共に當事者施設の特に其宜しきを得たる効果なることを感謝せずんばあらず

此の盛典に方つて殊に大韓國皇太子殿下の行啓幷に伊藤統監閣下の臨場を辱ふし一同の光榮何物か之れに加ん謹んで受賞者に代り答辭を陳ふ

明治四十年十一月十日
受賞者總代
淺野セメント合資會社韓國出張所 小田耕治

名譽授賞者

京城博覽會一昨日の褒賞授與式に於て名譽の賞を受けたる者左の如し

織物各種	京城の部	三越吳服店
同	同	山村吳服店
同	同	山口吳服店
同	同	松浦源二郞
雜貨各種	同	進辰馬
同	同	三井物產合名會社
綿糸及綿布	大阪	大阪紡績株式會社
同	同	內外綿糸株式會社
同	三重	三重紡績株式會社
油	仁川	日本石油株式會社
玻璃器各種	大阪府	島田硝子製造會社
沃度及沃度化合物並肝油	同	藤業合資會社
淸酒澤鶴	同	宅合名會社
同金露	同	大塚和三郞
同白菊盛	同	肥塚源次郞
醬油山又	同	河盛又五郞
莫大小	同	八木福商店
綿糸	同	郡山紡績株式會社
モスリン各種	同	伊藤忠兵衞
與輪製ランプロ	同	三平株式會社
醫療器械及皮膚病黴毒蠟製模型	東京	後藤節藏

暫貯問題の結果

當稅關に於ては去る八月廿五日より上屋貨物暫貯規則第四條を復活し從來構內上屋に暫貯するものは船舶入港後十日間海岸上屋に暫貯するものは七十二時間を經過すれば倉敷料を徵收すべしとて特例を發し貨物引取期間は貨物陸揚後七十二時間を經過すれば倉敷料を徵收することに一定し即日之を實行せり右に關する其後の影響如何を調査するに一般の貨主に取りては從來より數日の（貨物引取期間）日子を短縮せられたることゝて其不利不便は今更言を俟たざる次第なるも目下の輸入貨物激增の季節にあらざれば隨て貨物引取運搬等容易なると通關業者及び貨主各自非常に期間の短縮を念頭に置き注意を怠らざるの結果勢ひ貨物の引取を迅速にし爲めに荷捌上好都合にて左して倉庫狹隘を感ずる等の事なく稅關に於ても仁川商業會議所其他實業家の希望を容れ法規の許す限り貨主の便宜を圖り居ることとて現今の所左程に惡影響を認めざるものゝ如し

今貨物引取期間短縮の前後に於ける貨主の負擔せる倉敷料を月別に對照すれば左の如し

四月	四八三、九九	五月	五五五、六二
六月	九三二、五二	七月	四七六、六四
八月	四五一、〇八	九月	二六二、八四
十月	二九八、五三		

由之觀之短縮後即ち九月以降は從前に比し著しく減少を示せり之れ畢竟從前に於ける海岸上屋（商）に暫貯（主として木材セメント其他大嵩の物）期間貨物陸揚後七十二時間なりしも今回の適用に依れば陸揚引取の當日即二日間と正味七十二時間とにて都合五日間となりしため從前よりは二日間の延長を來たし隨て之等大嵩の貨物は期間內に引取を了し得ることとなれば倉敷料を徵收せらるゝこととして目下の處皆無なればなり構內庫の暫貯貨物に在りても從前よりは其數を減じ十月中に於て倉敷料二百九十餘圓を計上せるも一口にて多額の倉敷料を徵收せられたるにあらずして僅に數回の集合せるものに過ぎざるなり

●御禮狀依賴 曩きに富田仁川民長より村木東宮侍從武官長に對し東宮殿下御下賜金拜受の御禮申上方を依賴し置きたる處なるが更に伊藤統監よりの注意もありたれば此程更に東宮太夫職正三位勳三等侯爵中山孝麿氏に依賴したり

●加藤兒玉兩夫人參闕 愛國婦人會韓國本部大會に際し韓國皇后は御名代として皇后太夫尹德榮氏を式場に差遣はされ本部擴張基金として金貳千圓御下賜あり尙本部發展を喜ばせらるゝの御言葉をも賜はりたるを以て本部長代理伯爵夫人兒玉澤子加藤眞佐子の兩夫人は本日午後一時宮中に伺候し皇后太夫を經て御禮參上たり

●高見大尉の出發 仁川守備隊中隊長高見大尉は昨日午前八時二十九分仁川驛發部下の兵員を引率して開城に赴任したり

●憲兵來着 憲兵十九名は昨日成興丸より上陸し直に京城なる憲兵隊に赴任の筈

●統管の辭職 承寧府統管李載完は今回病氣の故を以て辭表を提出せしが宮內大臣は直ちに統管に向つて之が承認方を請求したり

統監府辭令
任統監府屬（五級）大藏屬 立石鳥七

●一昨日の參內者 慶運宮には百十三人內婦人五十名其重なる者は李宮相、閔侍從院卿、承候官尹澤榮同尹德榮其他へは李宮相、陪待武官長、趙東潤

●岡部理事官の一時歸朝 新義州理事官岡部三郞氏は病氣療養の爲め去る八日出發歸朝せられたり

●宮木稅關長 總稅務局に事務打合せの爲め昨日上京

●富田仁川民長歸仁 同民長は博覽會褒賞授與式臨席の爲め上京中なりしが一昨夜歸任したり

●木村一銀營業部長 同木村雄次氏は北韓旅行を了へ過日歸城したるが病氣の爲め目下引籠中なり

●石川少佐送別宴 仁川守備隊開城引揚と共に大隊長石川補次郞氏は本日十二日退仁することゝなりたれば信夫理事官、富田民長其他二三有志送別のため昨夕日本公園八阪樓に於て小宴を催したり

●仁川守備隊の寄附 本日仁川を出發すべき守備隊より昨日金二十圓を仁川居留民團立尋常高等小學校基本金として寄贈せり

◉靑年會上棟式 東大門涌水典洞に建築中なる基督敎靑年會館は明十三日上棟式を擧行する筈なりしも同日は韓皇昌德宮に遷宮せらるゝ爲め上棟式に臨場あらせらるべき皇太子御差支へあるを以て來る十四日に上棟式を行ふことゝなれり

●通水試驗 龍山步兵聯隊兵營專用水道工事竣工せしを以て今十二日午前十二時通水試驗を爲す由なり

公人私人

▲岸田正（山口縣厚狹郡技師） 天眞樓へ投宿
▲中山友藏（同上） 同上
▲朴重陽（平壤觀察使） 櫻家旅館へ投宿
▲岩佐程藏（日本銀行監査役） 巴城館へ投宿
▲シヤウノーマン（英國人） 同上
▲稻本天臣（奈良縣新聞記者） 紀國屋へ投宿
▲松田愛一郞（少尉） 浦尾旅館へ投宿

▲治外法權▼

南山の麓颯々として吹く松風の便りに聞くと不遠統監府の役人衆にも內地流行の授爵敍勳の恩典が下るそうである▲サテ其功勞の理由が那邊に存するやは知らぬがマサカ新協約の締結に與つて多大の力ありとの ではあるまい▲有れに云ふと今般の新協約成立は實際其締結体に時まで伊藤公を措て誰れ獨り與り知つて居た者はないのである統監が馬車を驅りて王城に向つた其目的さい知らぬが佛で居つた位で御當人達でも行賞などのあるべき筈がないのは良く御承知である▲併し統監殿が御自身公爵になられた釣合から皆の者にもすそわけがあると云ふ譯なら是は別の話であつて受ける御當人達は實に仕合のことである▲一体昨年統監府が出來て以來其文官先生達が何をなしたかと云へば只居留民イヂメと法令の濫造と藝者買と貯金とである▲併し官邊のことには得て不思議の事が多いからどんな事が彼等の功勞として數へらるゝやら夫は法權子が尤も知らんと欲するところである

▲醴泉(京畿) 郡内には今尚ほ暴徒の出沒するあり而して地方不安の念を懷けり
▲伊川(江原) 四日昔龍面月云洞里(邑より)路を經たる

暴を開始するに至れり…なるを以て郡民陸續…
五日正午…郵便取扱所を破壊し一進…郵便取…を焼き拂ひたり

…市原爲太郎氏は…制服を着し…
…に跳り入り…防禦に努めたるも衆寡敵せず血路を開くに至らず終に夫妻共に…
▲義興(慶北) 四日午後三時半暴徒百餘名…内に來襲せり巡査二名之れと對戰の後五日…
…路を受け再び虎口を免るゝを得たりし…地の分派所及郵便所は賊のため火災を起せ…
…巡士の率ふる暴徒約八十名を糾合し漸次義城及び軍威を窺はらんと揚言し居れりといふ
▲醴泉(慶北) 六日…し遂に高山方面に向へり
▲白川(黄海) 五日午前三時暴徒四五十名…

特別廣告

亡妻ノブ儀葬送の節は遠路態々御會葬被下難有奉謝候混雜中尊名伺漏も難斗乍略儀以紙上御禮申上候

十一月十日

呼子友一郎

親戚 牧山耕藏

友人 島田文之助

一日一筆

▲女學生 戀は神聖だワ自由だワ自由結婚は妾が理想よと七月の腹に息を切りながら

▲女判任 收支決算で忙しいワソレに今日は貴郎辨當の御飯が強い一箸が無かったヨ

▲女教員 考へると情ないワ今年で廿八兩親も察しが惡いワ自由行動を取らうか知ら

▲交換手 ホントに厭な商賣だワ小言が濟むと繼ろけの取次ぎ早く嫁入りがしたいヨ

▲看護婦 頃者は何から何迄自分一人だが一人の方が氣が樂ですと秋波送る院長の顏

▲助産婦 オヤ〳〵鉢器した大キナ兒が出來ましたヨとれ袋を子と間違ふ惶てさ加減

▲出札女 細い錢はありませんか仁川行は何時何十分と馬鹿に叮嚀なのは確に韻めた

▲女師匠 獨身で暮す今年で滿十年呑氣ですよと口には言へどつひ獨り寢の淋しさに

内田泰三氏が去る八日…伊通津郵金浦を距る約二里の鐵道一山停車場と相對する過の際漢江に往く小濟ぎ地點に日本人一名慘殺…したりといへり其の死…なるが盲目縞股引に白…に白のメリヤス親衣を…死後三四日間を經過したるものなるべしとのことなり

●ハテ似たような…る堅氣の娘仔細あッてんな墓なき商賣に身を…の道の一條は不束なが…と其身は潰るれど立つ…穀らぬ相生の松の緑の…

雜報

●井口少佐の葬儀 去る八日腸窒扶斯に罹り死亡したる在龍山の砲兵中佐井口吉五郎氏の葬儀を來十四日午後二時龍山本願寺に於て執行する由

●日韓書房の受賞 今回の京城博覽會に名譽一等金牌を受領せしよし尚昨日の授與に式皇太子御臨場の際數點御買上げの榮を得たるは同店の光榮とする處なり

●初發以來虎の患者 各地に於ける初發以來の虎列拉患者左の如し

		發生	全治	死亡	現在
釜山	日人	九二	二五	五九	八
	韓人	四一	四	三二	三
平壤	日人	十六	四	九	
	韓人	五八	七	五〇	一
新義洲方面	日人	六	二	四	
	韓人	六一	十八	四三	八

●韓人の持兇器竊盜(仁川) 去る九日午前二時半然も仁川の眞中なる新町二丁目高木病院に二名の韓人拔刀にて押入り竊盜に着手せんとする所を折柄密行中の阪下今井の兩刑事はかくと見るより同家に踏込んで右韓人を引捕へんとせるに兩名は大膽にも所持の白刃を揮つて抵抗したるを以て茲に四名の暗闘を生じ組んづもつれつ格闘し居りしが刑事の力や優りけん遂に其一名を捕縛したり然るに他の一名は格闘中矢庭に刀を打捨て一散に逃亡したるを以て遂に取逃すに至れり尚右阪下刑事は手に今井は顏面及手甲に刀創を負ゐたりと

●旅人の遭難 永登浦在居の鹿兒島縣人…

●小中將の執心 新町第一樓本店に小中將と源氏名を呼ばれ…川の片田舍にて横濱や新宿や…で喰詰めた上句が虎…町第一樓に喰ひ留り…最早や棺桶の用意も…す白粉の糊塗にて顏…

…云ふべき盛装をなし…カメカシにメカシ抜き…なるが此の女ッヒ先達…

見習生募集廣告

活版見習生 男子にして滿十一歳以上滿十六歳以下

解版見習女工 以上十五歳以上

京城市内に確實なる保證人を要す見習中日給は五錢以上三十錢迄を給す

京城 日韓圖書印刷株式會社

…不逢中には好いか知らぬが我々のやうな…

三面痛棒 …

廣告

パック社移轉 朝鮮パック社は南山町二丁目井上宜文氏方前に移轉したり

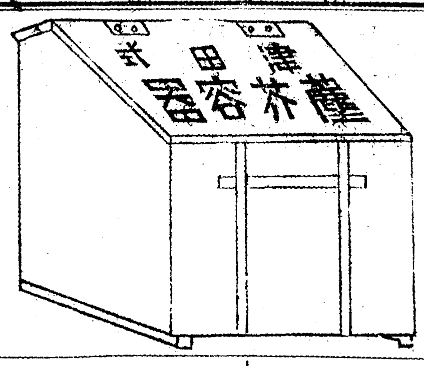
貸家

京城大和町二川端土地高燥清潔日本間〆温突勝手より家賃金貳十圓 京城民役所前角 京城興信所支局

自今禁酒 社内 高木久馬太

急告

京城理事廳令達第四號に基きたる塵芥容器は京城民團役所の檢定を經て多數製作罷在左記大廉價にて販賣可仕候間此際陸續御用命伏て奉希候



價格寸法

一號 金四圓八拾錢 横二尺二寸 高二尺八寸 巾三尺五寸
二號 金三圓八十錢 横一尺八寸 高二尺 巾三尺五寸
三號 金二圓八十錢 横一尺五寸 高二尺四寸 巾二尺五寸
四號 金一圓八十錢 横一尺一寸 高一尺九寸 巾二尺

發賣元 京城南大門外（鐵道管理局前） 東京伊藤出張所

塵芥容器 京城西小門內 製作工場

銀行一般業務精々御便利に取扱申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 七拾貳萬圓

株式會社 十八銀行 京城支店
京城南大門通（電話四二〇）

本店 長崎市築町
支店出張所
韓國 京城、仁川、木浦、群山、釜山、元山、羅州
日本 大阪、佐世保、五島、熊本、嚴原、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢四厘）

長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

株式會社 第一銀行京城支店

本店 東京市日本橋區兜町
內地支店及出張所 大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町
韓國支店及出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、木浦、群山、平壤、大邱、開城、城津、咸興、馬山、鏡城
淸國出張所 安東縣

電話番號 營業部 一一一番 / 營業部當直用 同一二番 / 營業部 三三二番 / 國庫部 六一一番 / 用度係 六二二番 / 分拆所 六二二番

總支配人 市原盛宏
副支配人 國庫部長 三島太郎
副支配人 調査部長 竹山純平
副支配人 營業部長 木村雄次

近刊豫告

獨修速成 日韓會話 訂正増補 日韓會話辭典 三板十一月中旬發賣 再板十一月下旬發賣

韓國漫遊案內

本書は韓國漫遊者の便宜に供せんが爲め韓國各地の地理風土名所古跡交通旅舍其他諸般の事項を簡易且つ正確に記述し加ふるに旅行用の韓語を交へたる案內記にして半島の勝地を探り要所を訪ねんとする漫遊者にとりては欠くべからざるの指南車なり

第一輯 京城、仁川、元山、鎭南浦、平壤、附錄汽車時間表 定價三十錢當分の內特價二十五錢 袖珍洋裝美本寫眞版入

發兌元 京城新王城前 盛文堂

綿類卸 京城明治町一丁目 唐川商店

兵庫新蒲團

諸官衙御用品調達

營業科目
紙類書籍
印刷附屬品
印刷インキ
防腐デシン
穀物食鹽
織物染料

各學校用品調達

幷に委托販賣

東京 合資會社アライアンス商會代理店
橫濱 百七番 ビユームエンドライフ商會代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店

藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目 電話二三〇番
支店 仁川港濱町一丁目 電話二一五番
出張所 東京京橋區南鍋町二丁目 電話新橋三九六二番

皇太子殿下の御料御用牛乳

弊場は韓國牛乳改良模範を以て任じ東西洋の學理と實驗とに徴し最も完全なる設備を施し南大門外萬里峴上の高地を相し純良絆なる乳牛數十頭と牡牛を輸入したるは韓國斯業の嚆矢なり爾來益々研究を重ね改良を加へつゝありたる其効空しからず

畏くも今回御行啓の皇太子殿下御料用に奉供するの光榮を擔いたり該牛乳「ホルスタイン」早崎號は當局小山技師、田中獸醫其他の詳密精細なる檢査を經て御採用相成りたるは一は牛種其ものゝ次第なり斯の如きの大光榮を擔ひ致す所なりと雖も又た平素御愛用を辱ふせる諸賢の御同情に因らずんば弊場は更に精選改良を加へ愛用諸君に酬ゆる所あらんとす、茲に皇太子殿下御料用の恩命ありしを拜謝し且つ告すると同時に御愛用を蒙りし諸彦に感謝す 謹

京城南大門 荒井牧場
取次電話一一七

江華郡江華島第三 荒井牧場

大福引……京城博覽會

○十一月十二十三兩日 雨天順延 入場セラル、方ニハ福引券ヲ贈呈ス但シ福引券ハ一日ニ五千本ヲ限リ發行ス
○右兩日ハ入場者一人ニ付觀覽券貳枚ヲ要ス
○景品ハ一等約百圓最低五錢ニ相當スル品ニテ白籤ナケレバ當ラヌモノナシ景品ハ其日渡シ
○十一月十四日 雨天順延 婦人デーヲ擧行ス當日五千本ヲ限リ福引券ヲ贈呈ス○觀覽券ハ一人ニ付貳枚
○景品ハ一等約七十圓最低五錢ニ相當スル品ニテ當ラヌ籤ナシ
○以上福引ノ日ニハ銅峴通リ表門ヨリ入場セラレタシ裏門ヨリノ入場ハ謝絕ス

濃口
薄口
日本醬油會社製品
其他淸酒各種
仁川港宮町二丁目 奥田醬油部（電話三百五番）

特約販賣
一羅紗毛織物類
並に洋服地附屬品
羅紗類直輸入販賣業
仁川港日本居留地本町一丁目六十號地 奥田商店羅紗部（電話五百十番）

熊平製造金庫
東京 竹內製金庫
大阪二重瓶 二回轉式 消火器

韓國販賣部 京城本町一丁目 熊平支店 電話六二四番

電話・開通・貳貳八番
一陸送運搬請負
今般電話開通致候に就ては親切叮嚀を旨とし精々勉强仕候間舊に倍して御便宜を計り御用命の程伏て願上候
京城南大門外一丁目 姫野荷馬車部

南山町二丁目（植村病院前）
貸席 待合 この花
客室は淸潔にして叮嚀なるは本店の特色に御座候

新聞賣捌
京城日報 一ケ月四十錢
大阪朝日新聞 一ケ月四十五錢
東京朝日新聞 一ケ月三十七錢
萬朝報 一ケ月三十三錢
時事新報 一ケ月五十錢
大阪時事新報 一ケ月三十五錢

右各新聞迅速確實に配達仕候間御便宜に今回申込所を設置仕候間御利用御申込被下度候

京城大漢門前 盛文堂 電話四二六番

申込所
大和町一丁目 田中商店
本町二丁目 江見商店
南大門外 目良商店

히이로

仁川 山口商店 南方商店 松本商店 藤田商店 加來商店

京城 佐野商店 林田商店 大坪 梶原商店 藤富商店

協同組滊船元扱 仁川出帆廣告

仁川海岸通 電話五二 協同組回漕店
京城南大門外通 電話七〇三 電話一四三 協同組支店

●門司神戶大阪行 駿甲丸 十一月 日午後四時出
●門司行 九州丸 十一月九日後四時出
●鎭南浦行 乾坤丸 十一月 日後四時出
●仁川群山線（漢津富里浦靈甲浦行） 三省丸 陰曆毎月一、六の日朝出
●仁川海美線大湖芝行 三省丸 陰曆毎月四、九の日朝出
●仁川港內曳船の依頼に應ず

右航路以外何れの地方にも店有之候に付海陸連絡運搬に輸出入手續共懇切御便利に取扱候

大阪商船株式會社 仁川出帆廣告

切符發賣所
仁川支店 電話二十番
仁川稅關波止場出張所 電話二〇番
京城本町通り角發賣所 電話三五〇番
荷客扱店慶田組 電話六五番 電話四二番

●關門、神戶、大阪行 安平丸 十一月 日前十時出
●關門、宇品、神戶、大阪行 京城丸 十一月十二日前十時出 咸興丸 十一月十八日前十時出
●群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戶、大阪行 群山丸 十一月 日後五時出 本浦丸 十一月十五日後五時出
●群山、木浦、馬山、釜山、關門、神戶、大阪行 千賀丸 十一月十九日後五時出 筑後川丸 十一月十二日後五時出
●木浦、釜山、嚴原、鄕之浦、長崎行 木曾川丸 十一月十日後二時出
●長崎行 信濃川丸 十一月十一日後二時出
●鎭南浦、大連行 本曾川丸 十一月 日 信濃川丸 十一月十三日前十時出
●鎭南浦、龍岩浦、安東縣行 咸興丸 十一月十一日後一時出

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告 電話十番

貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕店 電話三九番
京城南大門通 巴商會 電話三〇六番

●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 浦汐丸 十一月 日後三時出 第一オハヨ號 十一月 日後三時出
●太連、大沽行 酒田丸 十一月十四日後一時出 山東丸 十一月十九日前九時出 商砂丸 十一月二十八日後一時出
●鎭南浦、安東縣行 第一オハヨ號 十一月 日後三時出
●元山、城津、浦鹽行 淡路丸 十一月十四日 釜山出帆

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事